

1 件名

令和7年度タウンミーティング（葉の木沢山活動センター）（顛末書）

2 日時

令和7年11月9日（日）14時00分～15時40分

3 場所

葉の木沢山活動センター 体育室

4 参加者

男性13名 女性8名 計21名

5 市出席者

滝沢市長 武田哲、副市長 岡田洋一、  
企画総務部長 熊谷和久、企画政策課長 杉村 英久  
事務局 企画政策課 木下 智恵子、角掛 遥  
計6名

6 内容

（1）開会

（2）あいさつ 滝沢市長

（3）タウンミーティング

・第1部 重点事業の取り組み、トピック説明

「令和7年度市政運営の概要について」市長から説明（～14時40分）

・第2部 テーマについて皆様とフリートーク

出席者から感想を含め発言を求めた。詳細は下記「第2部のフリートーク内容」のとおり。（～15時40分）

（4）閉会

7 第2部のフリートーク内容

（市民）

自分は、犯罪被害者担当の保護司をやっているが、犯罪被害者保護条例を県では昨年、盛岡市では本年施行された。滝沢市でも4月に施行するとのこと、ありがとうございます。被害者の方が実際に市に行かれた際は寄り添った支援をお願いしたい。

⇒（市長）

普段から保護司の活動をされていることに感謝申し上げる。犯罪被害者から話はずれてしまうかもしれないが、昨今のクマ被害によるケアについても国へ要望しているところである。クマは顔を狙って攻撃してくるので、被害にあった本人や家族も心に大きく傷を負う。犯罪被害者同様、こういった事案のケアをしていかなければと思っている。

(市民)

子供の放課後居場所づくりについて、学童保育を希望する家庭が多く、40～50名の子供が利用し満員状態とのこと。富士見集会所を使用させてくれないかと相談されたが、とても無理だと断ったところである。予算的に厳しいかもしれないが、プレハブでもいいので建てるなど、また、例えば前巣子保育園の跡地などを活用できないものか。

⇒ (市長)

東小学校のところに新たに建物を建てるのは難しい。空いている場所を活用しながら、ということになる。全体的に子供の数は減っているが、共働き世帯が増加しているため、学童保育の需要が高くなっている。学校の中で活用できる場所はないか、また、地域の皆さんと子供たちが過ごせるような場所づくりの検討が必要である。学校やPTA、学童保育の支援員などと話し合いの場をもちながら、子供たちが安心して過ごせる場所の確保を考えていきたい。

⇒ (市民)

巣子保育園の跡地はどうなるのか。

⇒ (副市長)

民間企業へ売却する予定である。改良区の用地の関係で境界をはっきりさせなければならないということで現在、時間を要している

(市民)

クマについて、今年は餌が少なく冬眠しないのではということも聞く。山中の樹の下を餌場のようにして、餌になるようなものを置いてみるのはどうか。共存は難しいが、生活圏に寄せ付けないという意味ではどうか。

⇒ (市長)

去年はブナや栗の実が豊作で、栄養状態が良かったため、今年になって頭数が増えた。そのため、栄養状態をよくするのも考え物である。警察の持つ銃ではクマに致命傷を与えることはできず、散弾銃のなかでもスラッグ弾という銃弾が有効とのこと。10年以上スラッグ弾を扱わなければライフル銃の免許を取ることはできず、資格をとるのも30万円ほど費用がかかるとのこと。それに加え、一定期間、銃を使用していなければ没収されるとのこと。そういった規制の厳しさが安全な暮らしにつながっているものと思っているが、銃弾の値段も上がっており、費用がかかる。そこで、県の機動隊や県警の中でライフル銃を扱う人材の育成を要望している。その方が定年退職したあとに猟友会へ入っていただければ、猟友会の人材確保にもつながる。市職員でも1名、免許のある者がいる。新たに2人目の育成と思っているが、銃を保管するガンロッカーも所有する必要があり、アパートには置くことができないなど、課題がある。いずれにしても、一人一人が、生ゴミを外に置かないことや、この時期はクマ出没可能性がある時間帯に散歩をしないなど、気を付けることが大切だと考えている。

(市民)

子グマは処分できないと聞いたが、如何か。

⇒ (市長)

生活圏で捕獲した個体については、処分対象である。市内でも人身被害が1件あった。出没場所によっては、処分している。

(市民)

ニュースで、猟友会の事務所にも誹謗中傷の電話が多く入っていると聞いた。市役所はどうか。

⇒ (熊谷部長)

そういった電話はあるが、業務に支障をきたすほどの件数ではないと聞いている。

⇒ (市長)

北上市では、命を落とすような事故もあったためか、県外からも、対応についてや処分についての電話が多く入り、業務に支障をきたしていると聞いた。

⇒ (市民)

何に対してもクレームをつけたい人が便乗して、かけているのだろうと思う。毅然とした対応をするような条例等を作って置かなければ大変なのではと思う。

⇒ (熊谷部長)

そういったクレームに対しては国が指針を定めている。その指針に則り対応を考えていきたい。

⇒ (市長)

元秋田県知事の発言が世間を騒がせたが、人身被害も出ている中で、家族の命を失った人のケアをしっかりとすべきだと思っている。

(学生)

現在、大学3年で就職活動を始め、企業説明会や自治体説明会へ参加している。そういった説明会では、人事担当の方から給与の話や福利厚生の話などは聞くが、このような、市長や、市民の方と話をするようなことは無かったため、刺激的で面白かったと感じている。子供や高齢者への社会福祉を高めていくというという説明があったが、素晴らしいことだと思う。しかし社会福祉にはお金がかかり、若い世代からすると、これから自分たちの稼いだお金が、きちんと市民の求めるサービスへ分配されていくことが求められる姿だと思っている。どのように稼いでいくかということが、これから働く自分にとっては欲しい話である。本日、イノベーションセンター拡張について初めて知った。地方への企業誘致と雇用の創出というのは難しく、大企業受け入れというのも必要になり、外国人労働者の受け入れも考えていかなければならないフェーズになっていると思っている。大企業の誘致はいいことだと思うが、大企業側から「何のメリットがあるのか」と言われたら何を提示出来るのか、また、せっかく誘致できたものの、「市の負担がものすごく大きい」や「市民を雇用してくれない」などの課題に直面した際に、行政としてどのように対応していくか、市民をどれだけ雇用してもらえるかなどの交渉や、例えば企業に対して少し土地を安くするなどの譲歩といった現時点での考えがあればお聞きしたい。

⇒ (市長)

滝沢市の特色として、市内に大学が2校あり、4,000名ほどの学生が通っているという点がある。また、高校も2校ある。昨年の県内市町村の子供の出生数で滝沢市は多い方から6番目である。盛岡広域で合わせると2,000名ほど子供が生まれている。大企業を誘致している北上市や奥州市に比べて、盛岡広域の子供の数は多い。将来の働き手があるという点が、盛岡広域のもつポテンシャルであると感じている。国として人口は減っていく。同じ島国でもイギリスは6,800万人ほどの人口であれだけの国力がある。人

口は減っていくが、いかに技術力を高め国力に繋げていくか、それを若い人たちと一緒に考えていく時代になってきていると感じている。そこで、イノベーションセンターへIT関連や製造業の企業を呼び込みたいと思っている。先日、ある製造業の会社の方と懇談する機会があった。日本のPOSシステムで全国シェア6割の企業である。人手不足により、ライン生産をしていたが皆で話し合い、個別生産に切り替え、それにより生産効率も上がったとのこと。確かに製造現場では外国人も必要だが、チームで話し合い研究し、現場を改善していくということは日本人に合っているのではと感じた。良いものを作るために皆で話し合い、コミュニケーションを取りながら、個人の持つ資質を伸ばしながら事業を進めていける会社は伸びしろがあると思っている。

⇒（学生）

企業説明会へ行ってみても、たいていは滝沢市以外へ本拠地を置く会社で、募集人数も少ないところだと1名など、10名を切っているところがほとんどである。企業は、人件費を抑えるために機械化などの努力も必要だが、雇用の創出は行政の役割だと思っている。学生が就職しやすいような環境づくりを期待している。

⇒（市長）

企業の成長を手助けするのも行政の役割だと思っている。それが雇用の拡大や安定経営に繋がるものと考えているので、これからも頑張っていきたい。

（市民）

スクールガードへクマ撃退のためのスプレーを配布してほしい。また、6年ほど前から要望しているが、個人宅との境界で、枝木が伸びて隣家へ入り込みトラブルとなっている件について、条例で基準を定めて対応してほしい。最後に、民生委員のなり手不足について、現時点で1割ほど不足している。次回の改選である3年後にはきちんと手手確保できるような対策を考えてほしい。

⇒（市長）

クマ撃退のスプレーについて、様々な製品がある。しっかりと効果がある製品については1本2万円を超える。導入するにあたっては、有効な範囲についてなど、使用の仕方を勉強会などでしっかり説明しなければならない。現時点では、予算など調査中である。個人宅の境界での枝木の問題については、土地所有者とお互い納得しながらやっていけるように体制を作っているところである。その中で進めていければと思っている、引き続き進めていく。民生委員のなり手不足については、もしもの時に相談できる人、必要な情報が集められる環境づくりが大切である。昨今は個人情報取り扱いについて、敏感になっている。先日、ふるさと交流館で、障害のある子供をもつ親の方々と話をすることがあったが、家族の方も、名前は話さなかった。そういった情勢の中、こども家庭センターを通じて本人と面談し、必要な支援を申請してくれるよう、体制づくりをしていきたいと思っている。民生委員の活動を市民の皆さんへ周知することも必要と考えている。個人情報取り扱いについては、法令の範囲内でできることをやっていきたい。

（市民）

市民主体の地域づくりについて、滝沢山車まつりについて、今年は28回目である。先日、市勢振興功労者表彰式があったが、団体も表彰の対象となっていると記憶している。だが、団体の受賞はなかった。山車まつりについて、市としてはどのような存在として考

えているのか、また、表彰の対象となった場合にはどのような手続きなどが必要なのかお聞きしたい。

⇒（市長）

山車まつりについては、地域の皆さんが1つになる大きな行事であり、素晴らしいと思っている。子供から大人までがそれぞれ役割を持ち行っており、地域の力になっていると思う。地域がアイデアを出し、巢子振興会の活躍があって、山車まつりから巢子日曜朝市や鷹巣子市へ繋がっている。こうやって活動の場ができていくことはすごいと感じている。

⇒（熊谷部長）

市勢振興功労者表彰については、各課等からの推薦があり、選考委員会へかける流れとなっている。団体については、功労者表彰や特別表彰が対象となってくると思われるが、市内にある様々な団体との均衡も考えながら、今後、検討させていただきたいと考えている。

⇒（市民）

特別表彰についてはスポーツの分野が多いと感じている。山車まつりは、来年が30回目であり、実行委員会として表彰の対象となれば励みにもなると思う。対象となるには資料の提出などが必要なのか、こちらから何か提出するようなものではないのか、どのようにすればよいのか。

⇒（熊谷部長）

市勢振興功労者表彰の規程なども、もう一度確認し、今後、団体についての表彰についても議論を進めていきたいと考えている。

⇒（市長）

今年は実行委員長を女性の方が務められており、男女の垣根なく活動していること、しっかりと地域の団結力を醸成していることなども含め、滝沢市の1つの誇りであると感じている。表彰の部分についてはこれからも検討していきたいと考えている。

【当日の写真】

・ 第 1 部



・ 第 2 部

